

糸満市のサキシマハブ生息域拡大



サキシマハブ

外来ヘビ3種が生息拡大

沖縄県では多種の外来生物の定着が問題となっており、ヘビ類でも深刻な課題があります。沖縄本島には8種の陸棲ヘビが生息していますが、観光施設に起因すると考えられる、サキシマハブ、タイワンハブ、タイワンスジオの外来ヘビ3種が定着後に増加し、分布域を拡大しています。

そのなかでもサキシマハブはもともと、八重山地方にだけ生息していましたが、1976年に糸満市の観光施設でマングースとの決闘ショー用に飼育されていた約100匹が盗難後に放されたものです。事件直後の捜索では捕獲できず、1990年代には放棄現場周辺での捕獲や目撃数がハブと同数にまで増加しました。2000年までの10年間で当研究所に持ち込まれたサキシマハブは500匹を超え、1992～1995年の同市南波平で行ったハブ駆除実験では、ハブ126匹とサキシマハブ26匹を捕獲しています。2002年の聞き取り調査では、サキシマハブの分布範囲が放棄地点を中心とした半径3.5kmに及んでいます。糸満市でのサキシマハブ咬症は1982年に発生して以来、近年では毎年2、3件以上発生しており、咬症患者は2006年までに合計21名以上となりました。

校内で完全除去・林では増加

2003年4月、糸満市立米須小学校校内で15匹のサキシマハブが捕獲されたことをきっかけに、当研究所は小学校と共同でトラップによる捕獲調査を行いました。

2003年の1年間では、米須小学校校内でサキシマハブ52匹、ハブ3匹が、隣接する米須城跡林でサキシマハブ72匹、ハブ3匹が捕獲されました。この事例がマスコミで報道されたこともあり、学校と林

を隔てる防蛇壁が同年12月に構築されました。林からの進入路が絶たれたことにより、校内でのサキシマハブ捕獲数は2004年以降年々減少し、ほぼ完全駆除を達成しました。

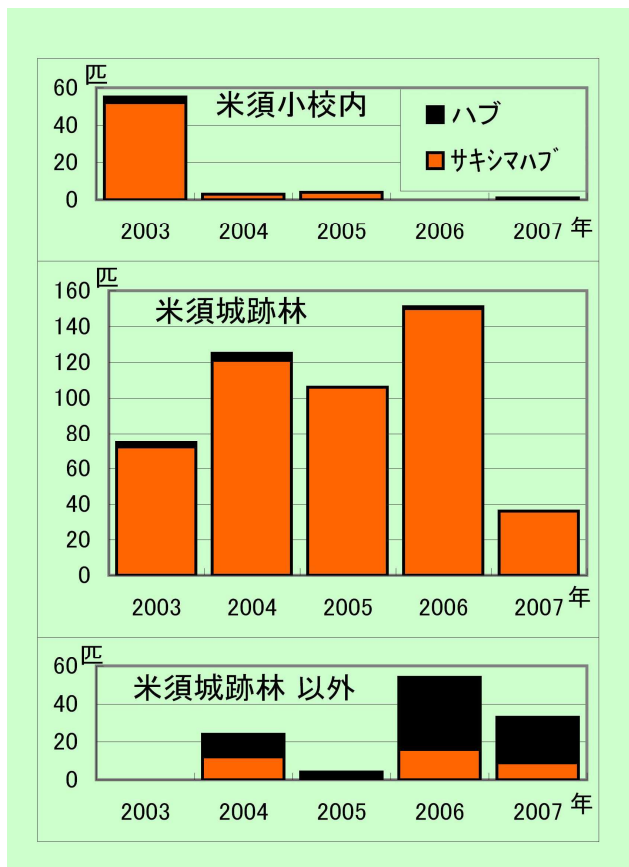
しかし、米須城跡林では、4年半でサキシマハブ485匹ハブ8匹とサキシマハブがハブの60倍多く捕獲され、高密度化が確認されました。なお、米須城跡林以外ではハブが多く捕獲されています。

望まれる駆除システムの確立

米須小学校の駆除事例は、防蛇壁の効果とハブ駆除の好事例となりました。ハブ類の侵入に悩む学校や公共施設、リゾート施設での対策の参照となることでしょう。

今後、サキシマハブ生息域の確認と地域ぐるみの駆除システムの確立が課題となります。

【衛生科学班】



糸満市におけるハブ類捕獲結果 (2003～2007年)

発行 沖縄県衛生環境研究所
〒901-1202
南城市大里字大里2085
TEL(098)945-0781
FAX(098)945-9366